

ワイヤーテンショナー 製品注意事項

・製品注意事項・材質について・点検/メンテナンス

製品注意事項:

- ① 弊社では材料のみの販売を行っており、施工は行っておりません。施工方法の不備や、お客様で製品を加工された場合に生じた製品の不具合や事故には対応できませんのでご了承ください。
※万が一、製品納品時に製品自体の問題が確認された場合には、代替品の交換やその他の対応を取らせていただきますので弊社までご連絡ください。
 - ② ワイヤーテンショナーはあくまで装飾用として使用してください。落下防止目的での危険な箇所への設置はお避けください。
 - ③ ワイヤー1本あたりの最大長さは、ワイヤーの太さや、ワイヤーテンショナーのタイプ別に変動しますが、3,000mm 間隔で金具を連結して取り付けることや中間支柱を設ける事を推奨しています。長い取付スパンにてワイヤー設置をご検討の際には当社にお問い合わせください。
 - ④ スウェーピング加工が必要なターミナル金具と、AT-S に使用するクリンピングワイヤーに関しては、出荷前に弊社専用設備でのスウェーピング加工が必要です。ターミナル金具単品、ワイヤーロープ単品で製品をばらばらに揃えても施工できませんのでご了承ください。
 - ⑤ ステンレス製品は全く錆が発生しない材質ではありません。下記の「材質について」、「点検/メンテナンス」を参照し、定期的なメンテナンスをお願いいたします。
 - ⑥ ワイヤーテンショナーは「業務用」です。「一般家庭用」ではありませんので製品の取り扱いには注意してください。
また、製品本来の用途以外では使用しないでください。想定外の事故の原因になります。
 - ⑦ 各製品の項目に記載されている寸法数値には多少の公差がございますのでご了承ください。
 - ⑧ 製品の使用荷重は、安全に使用するための荷重を表していますので、使用荷重を超えるような荷重をかけないでください。
また、衝撃が加わると変形したり破断したりする場合がありますので、急激な衝撃を与えないでください。
 - ⑨ 人を吊ったり、人の頭上で使用するなどの人命に関わるような用途には使用しないでください。
 - ⑩ 製品に変形や亀裂、磨耗等の異常が生じると破損する恐れがありますので、直ちに使用を中止し、製品を交換してください。
 - ⑪ 製品のねじが緩んでいたり、ばねが利いていない状態で使用すると事故の原因になります。製品を使用する前に点検を行ってください。
 - ⑫ 製品に過度のねじれや曲げを与えた状態で使用すると強度が低下し、破損する場合がありますので、正しい使い方で使用してください。
 - ⑬ 製品を故意に変形させたり溶接したり等、製品を改造して使用しないでください。想定外の事故の原因になります。
 - ⑭ ステンレス製品に異種金属を長時間接触させないでください。腐食の原因になります。
 - ⑮ 酸やアルカリを用いる場所や急激な温度変化を伴う環境においては、製品の強度が低下する原因になります。そのような環境では使用しないでください。
- 上記の注意事項を熟知した上で当社製品をお取り扱いください。また、誤った使用や不適切な取り扱い等によって生じた損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 製品改良のため、予告なくサイズや仕様等を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
 - 各製品の画像は実際の色とは異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

材質について:

■ASANO ワイヤータンショナーの主要材質

材質	相当する鋼材	特長および用途
SCS13	SUS304	最も汎用的な材質。 バルブ・ポンプ、建築資材、各種産業部品など。
SCS14	SUS316	SCS13より耐食性に優れている。 バルブ・ポンプ、食品機械、各種産業部品など。

ステンレスは、表面に形成される独特の保護皮膜によって腐食に強い材質です。

保護皮膜は酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っています。

ステンレスの表面が汚れている場合、酸素との接触が妨げられるのでサビが発生することがあります。サビない金属がではなく、サビにくい金属という認識をお願いいたします。

サビが発生しやすい状態

- 塩素系洗剤がステンレス部品に付着した場合。
- 海岸沿いなどで塩分が付着する場合。
- ばい煙、排ガス、塩酸、温泉蒸気、火山の噴煙などが付着した場合。

「もらいサビ」

上記のような状態では、ステンレスが「もらいサビ」を起こす可能性があります。

他の鉄製製品(釘やボルト、ナットなど)のサビが表面に付着したり、土埃の中の微細な鉄粉がステンレスにこびりつき、雨水などが原因でサビてこびりつくのが「もらいサビ」です。もらいサビは専用クリーナーなどでこすり落としてください。(表面に傷がつくことがあります。)

「もらいサビ」が落ちない場合は、サビが進行してステンレス自身にサビが生じたものと考えられます。一旦発生したサビは落とすことが難しいので、ステンレスの汚れに注意して日頃からこまめにお手入れをしてください。本格的なサビの発生を防ぐことができます。

「電食」

例えばステンレスワイヤーロープにアルミ製クランプ管を使用するなど、ステンレスに異種金属を接続して使用した場合、使用する環境(海水中や水気の多い場所など)によっては異種金属接触腐食(ガルバニック腐食)が生じる恐れがあります。この場合ステンレスはアルミよりも腐食電位が上位の金属であり、下位のアルミの方に腐食が起きてしまいます。これを「電食」と言います。

ステンレス製品に金具を接続する場合は、同等鋼種のステンレス金具を使用することをお勧めします。

点検/メンテナンス:

①ワイヤーのたるみ、断線、摩耗、腐敗(さび)などの異常がないか。

(1)たるみがあった場合、各タイプのワイヤー調節方法に従い、工具を使用してワイヤーを緊張します。但し、工具を回しきってワイヤーを緊張してもまだワイヤーがたるむ場合は、ワイヤー長が長くなっていますので、ワイヤー長さの再調整が必要となります。

この時、弊社からの出荷時にワイヤーが指定の長さにカットされスウェージ加工によってターミナル金具に固定されている製品は、ターミナル金具を含めて交換が必要となります。

AT-Sなど、施工者自身でワイヤーをカットしてターミナル金具に取り付ける製品は、一度ワイヤーを取り外して再度ワイヤーカットして組み直すことで解消できます。

(2)断線や摩耗、腐敗があった場合はワイヤーの交換をしてください。交換をする場合は、支柱からターミナル金具を取り外してください。

ワイヤー交換は、スウェージ加工済みの製品はターミナル金具までを含めての交換が必要です。

施工者自身でワイヤーカットして取付可能な製品は、ワイヤーのみを交換できます。

※AT-Sのワイヤー交換の場合は、クリンピングワイヤーをご発注ください。

②維持管理・清掃方法について

(1)汚れは、中性洗剤やシンナーで拭き取ってください。

(2)表面に付いたホコリや鉄粉などは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。

(3)金属製ブラシや砂入りの粗い洗剤は、キズの原因となりますので使用しないでください。

(4)酸性(例えば塩酸、硫酸、硝酸、苛性ソーダ)あるいは、これらを含むタイル、石材等の清掃薬剤は変色を起こす恐れがありますので、使用しないでください。

※サビがひどい場合はステンレス用サビ落としの専用クリーナーを購入してください。

また、専用クリーナーをご使用の際は注意書きをよく読んでからご使用ください。

その他ご不明な点がございましたら、当社までお問い合わせください。